



神奈川版
2024年6月号
月間「不屈」
No.600付録
編集兼発行人
小澤 睦夫

治安維持法犠牲者 国家賠償要求同盟

神奈川県本部

〒221-0823

神奈川県横浜市神奈川区二つ谷町2-9

TEL/FAX 045-314-1766

E-mail chian.kanagawa@spice.ocn.ne.jp

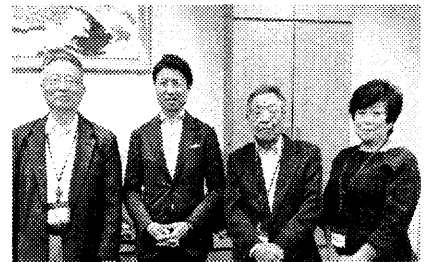
国賠同盟の出番の情勢に確信を持ち、「大会成功めざす署名・同盟員拡大特別期間」目標の達成めざして最後まで奮闘しよう



米軍基地が大変危険な役割を担っている状況があらわになってきま

自民党は4月28日の国政3補選での3連敗に続き、5月19日の小田原市長選挙、5月26日の静岡県知事選挙で連続して敗北しました。さらに6月2日東京港区の区長選挙でも自公の現職を清家あいさん（日本共産党が自主支援）が競り勝ちました。金権腐敗、国民無視の自民党政治は「もう御免」という国民の声が政治を大きくかえ始めています。

どの世論調査でも自民党以外の連立政権を望む声が過半数を超え圧倒しています。目前に迫った東京都知事選挙でも市民と野党の共闘候補が発表され、一気に正面对決の様相になりました。都知事選の結果は全国に影響を及ぼし、日本の政治情勢を大きく左右する重要な意義をもちます。



立憲民主の青柳議員控室で、県同盟の江藤さん、安食さんと



102歳の菱谷さんと記念写真

神奈川県の米軍基地が大変危険な役割を担っている状況があらわになってきま

米陸軍の揚陸亭部隊の配備強化です。ノースドックで兵士と装備を積んで沖縄へ行き、海兵隊と一緒に戦う。神奈川県が米軍の出撃拠点にされていくことを許さない、そのための運動と世論をつくっていくことが急務です。終盤国会で、憲法を踏みにじる地方自治法改定、土地規制法など不十分な審議のまま成立は許せません。

した。米空母は横須賀に居座る。厚木基地は艦載機の訓練に代わって、オスプレイを配備し整備と訓練をする。オスプレイを沖縄にもつていって海兵隊と一緒に海の殴り込み戦争をやる。さらに横浜のノースドック、

第19回川崎支部総会開かる

川崎支部長 塩田儀夫

5月27日、川崎支部総会が開かれました。昨年から、秋開催を春開催に変更した2回目の総会になります。

来賓として県本部から小澤会長を迎え、10人の少数精鋭(?)の面々による、2023年度の振り返り、2024年度の方針提案、会計報告、新役員体制などを討議、若干の修正・追加意見が出され、全体として議案の承認を確認しました。

月一回の幹事会の定着、月にひとりの同盟員を着実に増やしていこう、署名も旺盛に2000筆集めようと決めました。映画横丁いっぷく座も



そろそろ再開したいですね。

また、今年の秋の関東ブロック交流会は神奈川です。川崎支部も張り切っています。県本部と一体となつて成功させて行きましょう。

この混沌とした政治情勢の中、国賠同盟の出番をもっともっと増やしていくことを確認して総会は終了しました。その後、山崎事務局長のお手製「イチゴ&

県央支部だより

共謀罪法や特定秘密法、学術会議への介入、土地利用規制法、経済安保秘密法など、なんだか気がつかないうちにかつての治安維持法体制が蘇っている、そんな安倍・菅・岸田政治です。治安維持法国賠同盟こそこれらの動きに警鐘を鳴らし、大きな国民運動しなければならぬと

クリームたつぷりケーキ」が全員に振る舞われ、小澤会長も「いや〜いいねえ」と満悦の様子でした。

さて、さて、この報告を書いている時に、吉報が届きましたよ。会員がひとり入会したとの護柔さんからの嬉しいメールでした。幸先のよいスタートになりました。

《再び戦争と暗黒政治を許さない!》このスローガンをしっかりと掲げて今年度も邁進して行きましょう。

思います。

県央支部幹事会はこうした危険な動きを先ずは知ること、そしてこれを運動にすること、そのためには連続的に巡回学習会をおこなっていこうと計画しています。そして学習会にひろく参加を呼びかけることで、会員拡大をはかっていこうと思っております。

法」をテーマに県本部副会長の弁護士岡村共栄さんを講師に1連の治安立法を学びたいと思います。第1回学習会の概略は次の通りです。

テーマ 蘇る治安維持法
講師 岡村共栄弁護士
日時 7月21日(日)
午後1時30分〜4時
場所 伊勢原中央公民館

「種まく人びと」 一緒に見て加盟

支部の「会員拡大特別期間」の拡大目標は昨年の支部総会決定の次期総会までに「75名を100名にする」ことを全国大会までに達成することです。

4月から定例役員会でビデオ上映学習会を行い、役員以外の方も誘って鑑賞と懇談・学習をするようにしました。4月は「時代(とき)を撃てー多喜二」

【3面に続く】

【2面より続く】

5月は「種をまく人びと」を日本共産党の事務所をお借りして行いました。開催するたびに、会員外からの参加者があり、鑑賞の後、「もう一度蟹工船を読みたくなった」「戦前の弾圧に負けないで頑張った人たちのことを思えば今はもっと頑張らなければ」と感想を出し合いました。そうした中で4月、5月2名の方に入会してもらいました。6月1日現勢は82名となり6月を迎えました。

支部の定例役員会議は6月21日、全国大会が終わってしまふ、これではまずいと6月2日、保土ヶ谷区の役員と相談会を持ち、「種まく人びと」上映会を保土ヶ谷区で6月16日午後を開くことにして段取りを取りました。その場で居合わせた男性に「国賠同盟に入ってください」と率直に呼びかけると「はい、いいですよ」「お連れ合いですにも入ってもらいたい」とたのむと、いいですよ。私から話して夫婦会員の会費6千円払いますよ」と快諾。瀬谷区在住の友人

に電話で話すと「国賠同盟は個人加盟だけです。団体加盟というのはないんですね」「それでは私と連れ合いで夫婦員になりましたよ」と快諾してもらいました。一気に4人の拡大で現勢が86人に。目標まで14人です。目標達成して全国大会に参加したいと力が出て

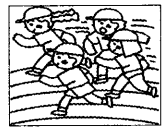
治安維持法国賠同盟が 横浜母親大会でアピール

5月26日(日)横浜瀬谷公会堂で横浜母親大会が開催されました。地元の横浜西部支部は8名が壇上に上がり、代表して旭区の吉永マリ子さんが国賠同盟の活動と署名入会の呼びかけを行いました。国会議願署名が170筆寄せられました。

アピール

戦前、天皇制政治のもとで主権在民を主張し、侵略戦争に反対したために治安維持法で弾圧され、多くの国民が犠牲をこうむりました。治安維持法は思想そのものを犯罪とするものでした。当初は共産主義運動への適用とされましたが、

きました。「種まく人びと」のチラシも作り、赤旗しんぶんに折り込み、案内をしました。保土ヶ谷では立憲民主党の青柳陽一郎議員が国会議員紹介議員になってくれたことが大きな力になっています。



次第に知識人、市民、宗教家はじめ全国民に適用されました。何も知らない少女が「茶碗維持法って何?」と言っただけで検束されました。何も、ものの言えな

い時代だったのです。

然しこれに対して、小説『蟹工船』で有名な小林多喜二、最近その生涯を映画にもなった伊藤千代子などを始め若者を中心に闘いました。

そして捕まり、その犠牲者は1925年に治安維持法が制定されてから1945年日本の敗戦で廃止されるまでの20年間に逮捕者数数十万人、検挙された人6800人以上、拷問で殺された人およそ100人、獄死者400人以上に上っています。ところが日本政府はこれらに人たちに謝罪も賠償もしていません。海外ではドイツ、イタリア、アメリカ、カナダ、韓国、スペイン、イギリスなど主要な国々で戦前、戦中の弾圧犠牲者への謝罪と賠償が進んでいます。

神奈川県は戦前工場地帯だったので特に活動家が多く、捕まったら獄死や病気になる人が大勢いました。これに対し、当時の犠牲者の人々を中心に、治安維持法時代の実態やその教訓を後世に伝える

【4面に続く】

【3面より続く】

ると共に、戦前の悪法で弾圧の被害を受けた犠牲者たちに国として謝罪し、国家賠償を行う法律を制定するように運動を進める組織を作りました。それが国賠同盟と通称黄色い署名です。毎年5月に集まった署名を持って国会請願を行っ

7年ぶりのイランにて

【寄稿】 しんぶん赤旗記者 北谷 まり

4月14日 天明 (現地時間)

イランがイスラエルに向けてドローンとミサイルを発射したとのニュースが流れました。その時イランの首都テヘランに滞在していた私のメールに、在イラン日本国大使館から「注意喚起」が送られ、「今後商用機での移動が困難になる可能性があり、定期商用便が運航されている間の出国をご検討ください」とありました。

翌日、「イラン・イスラエル間の緊張の高まりに伴う動向把握」のメールが届き、滞在地と出国予定日を聞かれ、すぐに返信。それに對し大使館から「今後情勢が悪化

ています。

神奈川本部が東神奈川に在り、各地域にも支部があります。

本日はプログラムに黄色い署名と入会案内を入れさせていただきましたのでどうぞ協力下さい。再び戦争と暗黒政治を許さないために共にがんばりましょう。

する可能性もあり、早期の出国をご検討ください」と返ってきました。

しかし現地では、普段通り何も変わらずの生活で、現地の人からは「犠牲者は出ていないし、何も心配ない」と言われました。紛争や戦争



が「当たり前」に存在している地域の人にとって、このよ

うなことは、日常茶飯事だということが感じられました。

次に19日 早朝 (現地時間)

イラン中央部において爆発音が発生したとのことで、日本国大使館から再び「緊急「注意喚起」が届きました。私は「これ以上拡大することはないな」と思い、とにかく帰国便がキャンセルされないことだけを心配しました。

それはツアーコンダクターとしての経験から、何かあった場合自分の身にふりかかるのは、空港の閉鎖と航空便のキャンセルであると認識していたからです。

トラベルという言葉はトラブルから来ていると言われていますが、最悪の事態を想定することも大事です。

私は、2020年1月にテヘランの空港を離陸したウクライナ国際航空機が、誤爆されたことを思い浮かべました。そのようなことが起きない保障は、どこにもありません。国際間の緊張は一刻も早くなくなつてほしい、と心から思いました。

帰国日、テヘランの空港を離陸し、ドバイへ向かう機内で

戦争がない日本の「輝き」を改めて実感しました。日本がまぶしく感じられました。「戦争がないのが当たり前」の日本は、世界でも稀有な存在であり、これがどんなに貴重なことか。この「宝」は、市民の力と憲法が作り上げてきた、このことを確信に「戦争のない日本を絶対に失ってはならない」と改めて心に誓いました。

5月10日の党川崎市議団の学習会で、渡辺治・一橋大学名誉教授が「憲法9条を次の世代にそのまま渡すことが、日本と東アジアの平和の大きな力になる」と力説しておりましたが、私はそこに大きな希望を感じました。新たな力が湧いてきます。

【県本部4役会議】

6月24日 (月)

午後1時30分より

